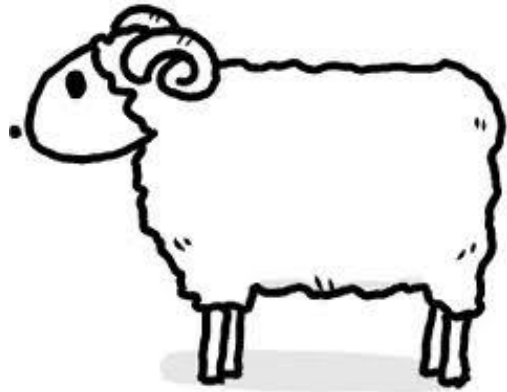


地方会議録コーパスを用いた オノマトペ使用の地域比較と通時的分析

2010062 遠藤星地

擬音語

／ マーメー ／



／ ワンワン ／



擬態語

モヤモヤ



カンカン



オノマトペの利点

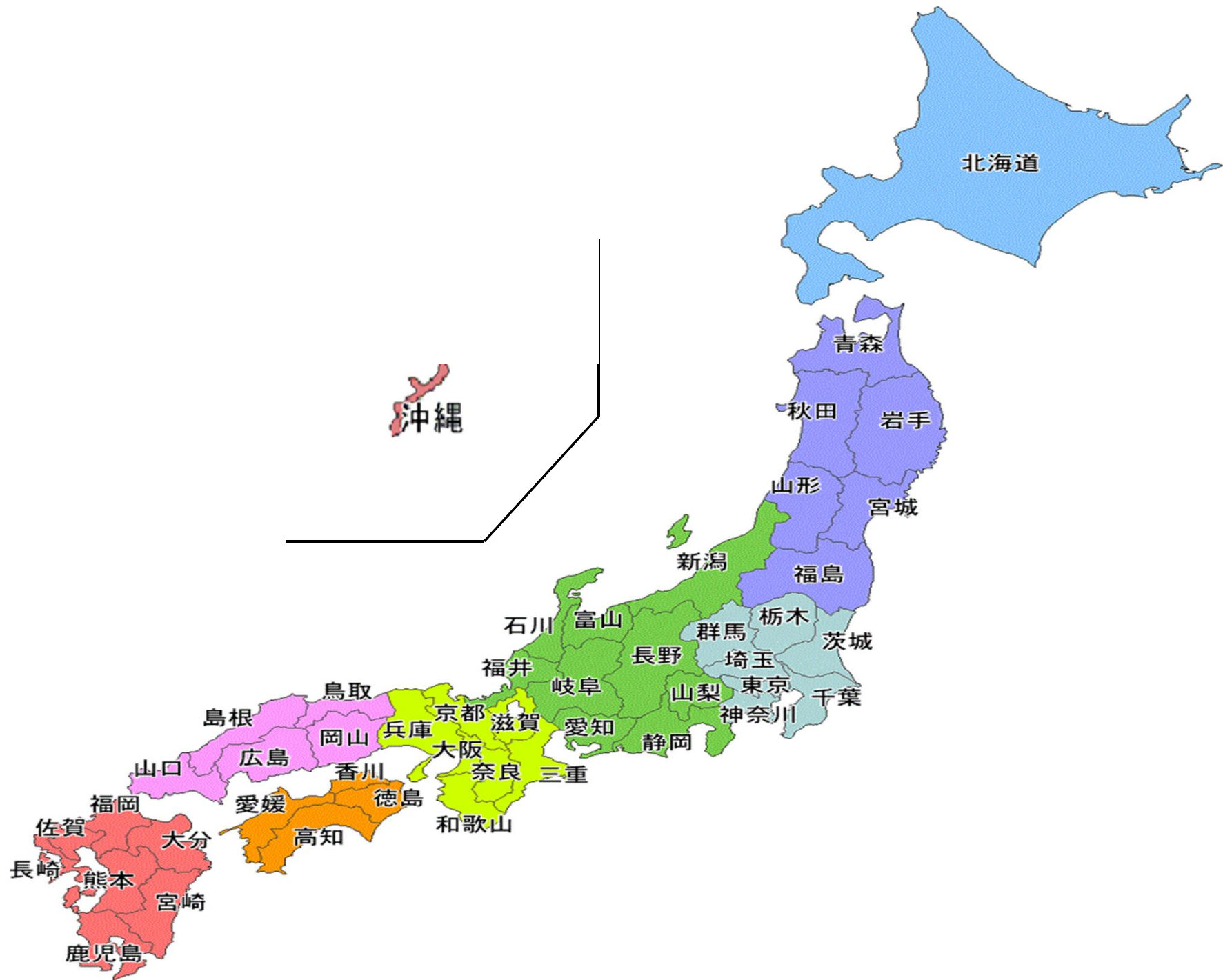
- ・絶妙な**感覚**や**感触**を簡単に**表現**、**イメージ**できる
- ・少ない語数で莫大な**情報量**
- ・**短く**直感的に表現が可能



入
社。
し

受
取

用
意



『国会会議録コーパスを用いた オノマトペ使用の地域比較』(平田ら)

[平田らの目的]

オノマトペ使用頻度の地域差が
存在するのかどうか検証する。

[研究手法]

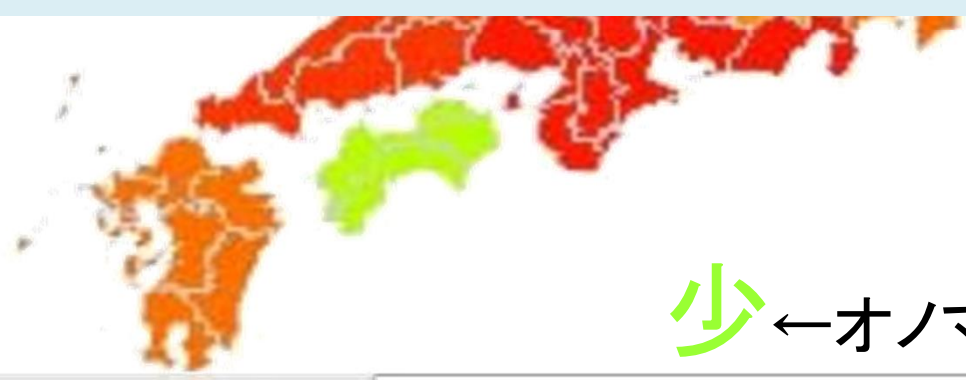
1. 国会会議録を対象にオノマトペの抽出
2. 発言した議員の出身地の調査
3. 地域ごとにオノマトペのカウント
　　>>使用頻度の割合の算出

*コーパス: データベース化された大規模な言語資料



平田らの結論

地域によるオノマトペ使用の偏りは存在しない。



少 ← オノマトペの使用頻度 → 多

『国会会議録コーパスを用いた オノマトペ使用の地域比較』(平田ら)

[従来研究の問題点]

国会会議録は、発言者の出身地の全てを特定していない。

国会議事録と地方会議録

[共通点]

- ・通時性のある膨大な会話データ
- ・政治関連

[地方会議録の利点]

- ・発言者の出身地が明確
- ・各地域ごとに地域性と通時性のあるデータが取れる

『地方会議録コーパスを用いた オノマトペ使用の地域比較と通時的分析』

[目的]

- 地方会議録コーパスを用いオノマトペ使用頻度の地域差が存在するか検証する。
- 「いつから」オノマトペ使用頻度の地域差が生まれたのか

[研究手法]

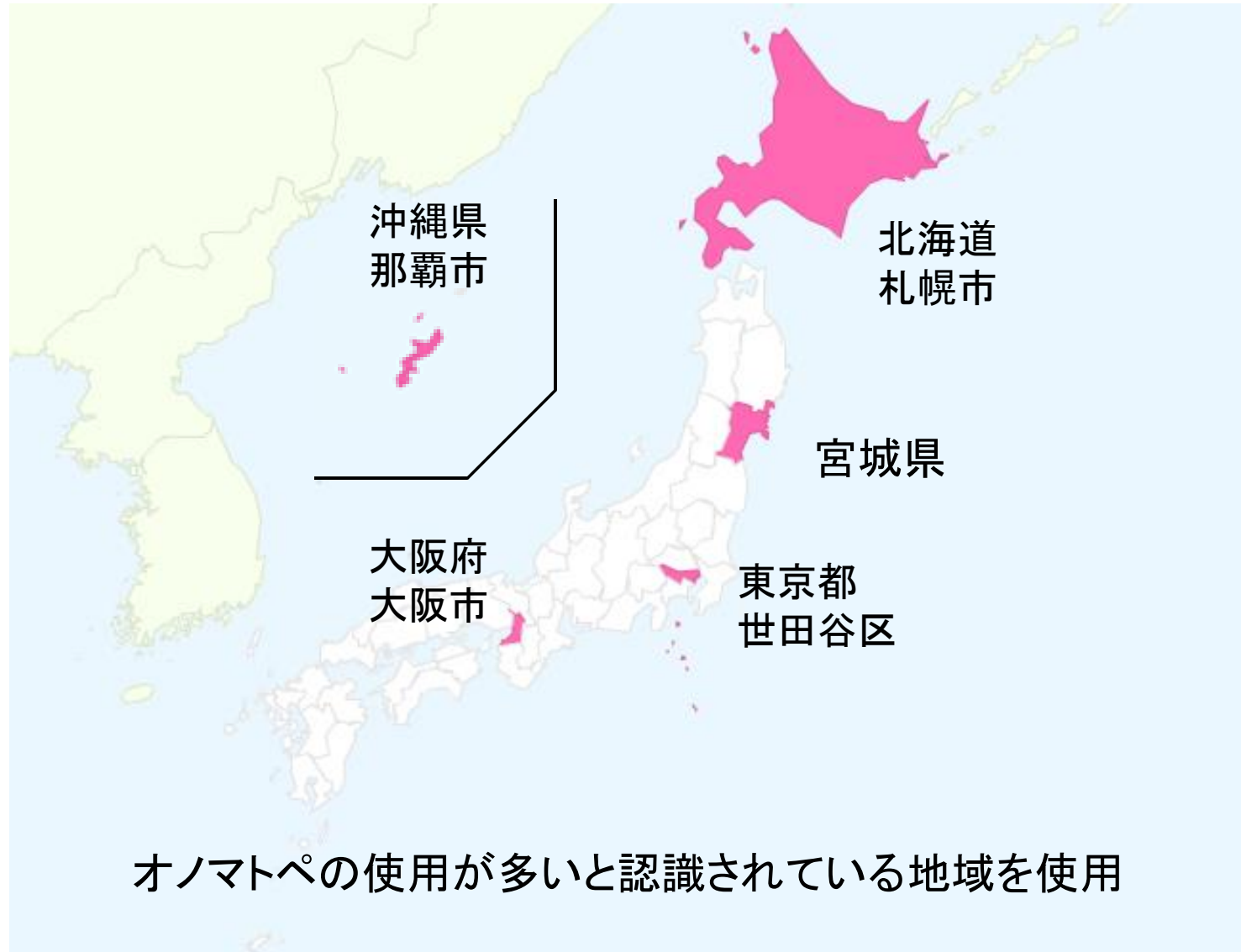
1. サンプル対象のオノマトペを選定

	北海道札幌市(966,640)						
	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	札幌 合計	1970 年以 降合
あくあく	0	0	0	0	0	0	0
あたふた	0	0	0	0	1	1	2
あっさり	0	0	0	0	0	0	1
あっはん							0
あはあは							0
あばあば							0
あぶあぶ							0
あぶあぶ							0
あへあへ							0
あべこべ	0	0	0	0	0	0	0
あむあむ	0	0	0	0	0	0	0
あやふや	0	0	0	0	0	0	0
あわあわ	0	0	0	0	0	0	0

- ひらがな4文字
- 約1400語

[研究手法]

2. 比較対象とする地域の選定



[研究手法]

3. 地方会議録コーパス検索システムを使用し、オノマトペの使用頻度を地域・年代別に集計する。

[研究手法]

議事録検索ページ

発言検索 部分一致検索

発言者検索

市町村 市町村で絞る ▼

年度 年度で絞る ▲以上 ▼以下

[検索する](#)

ヒット件数 74

クエリ shichoson_cd:271004 AND nendo:[1970 TO 2010] AND text:"ぐるぐる"

サーバ処理時間(ms) 1020

CSV(Max:100,000)

[CSVで取得](#)

0 大阪府大阪市 太田勝義委員 昭和61年2・3月定例会常任委員会（土木港湾・通常予算） - 03月11日 - 02号

ここの中央公会堂から天満警察へ、銚流橋渡って梅ヶ枝町へ抜けようと思ったら、ぐるっと回って、また左へ行って、ぐるぐるぐるぐる回って、地の者以外は梅ヶ枝へ出られません。 [全文表示](#)

1 大阪府大阪市 黒木武好委員 昭和51年3月定例会常任委員会（文教経済・通常予算） - 03月15日 - 03号

そうするとその車はとめる所がないので、大型車がぐるぐるぐるぐると大阪市内を回らなければならない。 [全文表示](#)

2 大阪府大阪市 岡田明経委員 昭和49年3月定例会常任委員会（民生保健・通常予算） - 03月20日 - 06号

ぐるぐるぐるぐる書類がまわつてですね、市長が自分ところの家の前に放られて困つておるにもかかわらず2カ月3カ月は普通であつて、半年1年も、これはもう目下探してまんねん、いや公報がこないや、いや警察がとい [全文表示](#)

3 大阪府大阪市 大西宏幸委員 平成18年6月常任委員会（民生保健） - 06月27日 - 01号

これが全部同和対策になつてるといふ、これ悪しき前例がぐるぐるぐるぐる回つておる。 [全文表示](#)

[研究手法]

	大坂府大阪市(2,505,532)						
	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	大坂 合計	1970 年以 降合
きっちり	0	1	18	35	174	228	1686
ばらばら	0	4	1	19	16	40	451
ゆっくり	0	9	7	8	15	39	349
ゆったり	0	2	2	2	7	13	128
すっきり	0	11	0	2	0	13	61
わくわく	0	0	0	1	9	10	119
がらがら	0	1	2	5	6	14	102
いらいら	1	1	5	2	6	15	65
ぼつぼつ	0	4	3	3	0	10	105
ひしひし	1	0	0	0	2	3	47
ばっさり	0	0	0	0	0	0	62
ぴったり	0	4	3	0	0	7	49

[研究手法]

4.各地域のオノマトペの使用頻度を可視化

沖縄県

[結論]

先行研究とは異なり、地域によって
使用頻度の偏りがみられた。



北海道

宮城県

東京都

大阪府

沖縄県

オノマトペの出現数

オノマトペが出現する割合

* 割合は対象地域のオノマトペの総出現数/1970~2010年の地方議会の総発言数で計算

[発見点]

「つるつる」の文章例

- ・冬期間の**つるつる**状態が大変厳しく(北海道)
- ・札幌市は、雪国で、**つるつる**道路で(北海道)
- ・**つるつる**路面の解消に努めてまいりたいと考えております。(北海道)
- ・塗装されて、表面が**つるつる**して(東京)
- ・そのパイプが**つるつる**に光って(大阪)

[発見点]

・つるつる

北海道	宮城県	東京都	大阪府	沖縄県
37	0	2	4	0

雪国→滑るイメージでの使用

他のエリア→質感としての使用

使用頻度も異なり、意味も地域によって変化している。

オノマトペはその地域の天候・慣習・内包する課題などによって左右されることがある？

まとめ

[目的]

地方会議録コーパスを用いオノマトペ使用頻度の地域差が存在するか検証する。

[結論]

先行研究とは異なり、地域によって使用頻度の偏りがみられた。

北海道	宮城県	東京都	大阪府	沖縄県
402	1943	1301	12515	2054
0.04159%	0.15487%	0.09333%	0.54030%	0.31037%